

あらゆるものに新しい命を注ぐ春の訪れを肌を感じる今日ここに、ご来賓の皆様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、令和五年度 修了式・卒業式を挙行できますことに心より感謝申し上げます。

式辞

ただいま、専攻科二年修了生十八名の諸君に修了証書を、そして本科五年卒業生百八十七名の諸君に卒業証書をそれぞれ授与いたしました。本科卒業生、専攻科修了生の諸君に対し教職員一同、心からお祝いを申し上げます。この修了式・卒業式は、本校教職員ひとりひとりが慶びを実感し、立派になった諸君を頼もしく、また誇りに思うひとときであります。

諸君、本当におめでとう。

修了生・卒業生の保護者の皆様におかれましても、ご子息・ご息女の修了そして卒業、誠におめでとうございませす。ここまで、本校の教育方針にご賛同いただき、教職員

を信頼し、長きにわたり彼らを本校に託していただきましたことに御礼を申し上げます。

本校の、学生の自主性を重んじる校風の下で、諸君は多くのことを学び、経験しました。百六十七単位の卒業要件、六十二単位の修了要件。これだけでも、大変だったと思います。くわえて、様々なイベントに参加しましたね。海外留学に挑戦したり、課外活動に打ち込んだり、様々なコンテストに取り組んだり。そのほか、学生会や寮生会での活躍、こよう祭や寮祭への参加などなど。振り返れば、これまでのすべての経験が、今日の諸君を形作る上で、不可欠でかつ貴重な糧であったと言えるでしょう。また、これらのイベントを通じて議論し、心を通わせた友人達や、助言・励ましをくださった先輩・後輩は諸君の一生の宝となるに違いありません。

さて、ここからは、今年度の修了生、卒業生の皆さんに對して贈る言葉になります。コロナも明け、今後諸君に影響が大きいと思われるその話題として、今年度はChatGPTに

代表される生成AIを挙げたいと思います。今年度に入り、ChatGPTの出現は社会を驚かせ、教育界には自ずと是非論が湧き上がっています。昭和四十年代からしばらく続いた電車の、授業への導入の是非も時間と共に移り変わりましたが、それとは比べものにならないほど、生成AIは、使われ方によっては教育の深刻な荒廃をもたらす危険性があるとされています。それは、生成AIが作文までも人の肩代わりをしてしまうからであり、筋道を立て物事を考える力そのものを後退させる懸念がもたれるからにほかなりません。

本校でもすぐに、「生成AIの学習での利用について」と題する、学生諸君用と教員用のガイドラインを作成し、AIに開示していますので、ぜひこの機会にもう一度チェックしていただきたいと思います。そこには、「生成AIのツールを安易に使用することで、思考過程の訓練の機会を逸することになり、長期的には当人の能力向上が損なわれる懸念もあります。」と書いています。生成AIの濫用が「思考過程の訓練の機会を逸する」ことは、直前に述べました。では、「どのような能力が育たなくなるのか？」物事を創造するに

は、大変緻密な論理的思考の組み立てが必要です。この根幹を生成AIに委ねてはいけません。人類の福祉に対する貢献を目指す諸君には、これまでと同様に自分らしく主体性をもつて社会課題に取り組み、自ら考え豊かに創造性を発揮しながらその解決に取り組んで行ってほしいと強く願います。

生成AIに限りません。今後も、文明の利器は次から次へと現れるでしょう。これらを上手に利用し、しかし恒に主体的に考え、勇氣をもつて判断し、自らの主体的な行動に反映させてください。

最後に、絶えず諸君の心身の健康に気遣い、諸君の健康に對し声援を送り続けてくださった親御様ほか身近な方々のお心遣いに、いま一度深く感謝しましょう。くわえて、「生きた知識や技術の伝承と進展は、直接人から人へ」を合言葉に、諸君が在学中に遭遇したあのコロナとも戦いながら丁寧な教育を心がけ、ご尽力いただいた教職員の皆様への感謝の気持ちも決して忘れないでください。

諸君のこれからの洋々たる前途を祝し、今後のご健勝を
祈って校長式辞といたします。

本日は誠におめでとうございます。

令和六年三月十九日

独立行政法人 国立高等専門学校機構

豊田工業高等専門学校長 山田陽滋